



海上の道 (琉球列島の人々①)

8月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2022年8月1日(月)

今から3600年も前のことである。

司馬遷の史記には、その頃の王朝は、夏王朝に続く殷王朝であったことが記され、約30代の殷の諸王の名前も明らかにされていた。

しかし、殷王朝の存在は20世紀の初めまでは確かなものとはされなかった。ところが、1928年中国江南省安陽市で殷代の遺跡、殷墟が発見され、その発掘によって、司馬遷の記した通りの殷王朝が実在したことが証明された。

多数の宮殿跡、大墓、小墓、無数の竪穴が発見され、白陶、象牙彫刻、玉器などや文字を刻んだ甲骨が多数出土した。

出土品の中には、多くの炭化した寶貝があった。

貝は当時の通貨であった。従って宝を表す言葉はみんな貝偏になっている。例えば、「財宝」、「貯める」、「贈る」等・・・。

中国大陸では寶貝は採れない、寶貝は珊瑚礁の浅瀬でしか採れない。

一番たくさん採れるのは琉球列島、特に宮古島が最大の産地であった。

それを書かれた柳田国男先生の「海上の道」の仮説は魅力的である。

殷の王朝が中原に進出した背後の勢力は東方にあった、所謂“東夷の海”の営みである。今ではほぼ明らかになっているのが、“寶貝の供給”が東夷の海で行われたことである。

「殷」と言うのは東の方から出てきた王朝で、「夏」と言うのは西の方の王朝だという同時代に存在した王朝だという説もある。夏の後に殷が続いているのではなくて、ある時期、夏と殷は同時に存在した。

つまり東が「殷」で、西が「夏」であったという考え方も有力である。

東の殷は寶貝の供給地に近い。国力を強化するために、当時の通貨である寶貝(財宝)を求めて、多くの中国人を、琉球の宮古島へ貝を採るために送り込んだ筈である。

しかし、やがてこの寶貝が通貨としての地位を失う。青銅の銅貨がオリエントから伝わり、2500年前あたりから銅貨が寶貝に取って代わった。

貝を採りに来た人々は、もう貝がいらない。

寶貝を採るためにやってきて、そこに住みついた人は稲作の技術を持った人々だから、そこに細々と稲を植えていた。しかしどうも離島では狭い。ここでもっと大きな隣の島へ行こう、そして日本列島、九州までやって来て稲作を行った、というのが柳田先生の仮説である。

参考：史記(殷本記)、陳舜臣(中国発掘物語、講談社)、柳田国男(海上の道、角川文庫)